

常なる磐

つねなる いわ seasonⅢ

令和 5年 3月 17日(金)

通算 316号

◇ 小中合同オンライン交流会



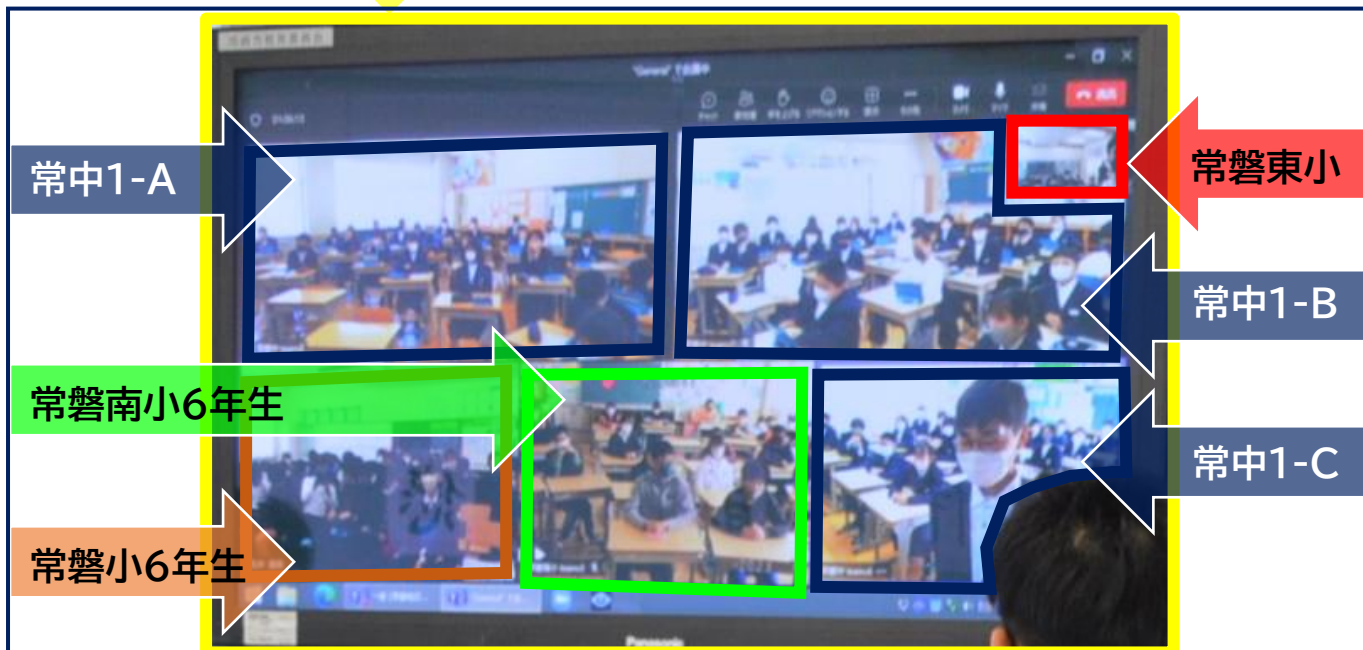
2学期以降、継続的に行ってきた常磐3小学校(常磐東小・常磐南小・常磐小)のオンライン交流。他校児童とのかかわりは、限られたコミュニティー環境にある本校児童にとって学習意欲を促進させる「大きな励み」となった。加えて、今後につながる「意味ある準備」になったことは間違いない。

常磐3小学校は、いずれも常磐中学校区でもある。つまり、転居による転校や国立・私立中学校への進学者を除けば、その他の全員が常磐中学校に進学する。よって、オンライン交流を通し、将来的に仲間となる他校生とかかわりをもつことは、さまざまな面でプラスに傾く。これが本取組における3校の校長と担任、総意の「ねらい」でもある。

そして、14日に行った4回目の交流には、心強い味方が加わることになる。常磐中学校の1年生(A組・B組・C組の3クラス)である。



4月になれば、6年生の多くが常磐中生。進学への期待は大きいですが、不安が全くないとも言えない。そんな中で、小中ギャップを埋めるべく、常中生に協力してもらっての小中4校交流が実現する。市内初の試みは結果的に大成功だ。



小中交流は、中学校生活に関わる小学生の質問に対して中学生が答える形で進行していく。

質問内容は、①学習関係・②部活動関係・③学校生活全般にかかわるもので、小学生にとっては、先輩の生の声は非常に参考になる。

大いに盛り上がったのh、自校を卒業した先輩が回答に登場した際だ。回答する前に、登場するだけで拍手が沸き上がる。中学生も心得たもので、回答の前には、『〇〇〇小学校出身の…』と前置きをつけくれる。さすが先輩、配慮に感謝。

ところが、なかなか常磐東小の先輩が登場しない。

あたりまえだ。他の2校に比べ、東小卒業の先輩は圧倒的に人数が少ないのだ。

他校が盛り上がる状況にしびれを切らし、**Kari**さんが質問する際に、ちょっとした工夫を凝らす。

質問を述べた後に一言つけ加えた。『常磐東小学校の先輩をお願いします。』

なかなかいい工夫である。



質問内容は、「難しい教科」と「その理由」。

回答に登場してきたのは、1-C組の**T・Haru**先輩だ。ところが、なにやらC組全体が盛り上がっている。**Haru**君はどうやら、C組の人気者らしい。

そして、**Haru**君の回答。

『難しい教科は英語です。理由は【日本人だから】です。』???
珍回答に、小学生も中学生も大爆笑の渦。

質問が「部活動」に移ると、先輩たちが続々と登場する。

H・Runaさん、そして**H・Ren**君。回答も立派だったが、立ち姿も立派だ。

そして、質問は「学校生活」に。

質問する6年生のMaiさんは、質問の仕方にもう一工夫する。

『常磐東小学校の先輩に答えてほしいんですが、……………』前置き指名である。

この方法は効果的だ。答える側も心構えができる。

そして、ここで登場してきたのは**Sei**君。はきはきとした語り口に成長の跡。加えて、声変わりした響きのある大人っぽい声に、大変身&大成長を垣間見る。

最後は、A組担任の荻野先生からの指名で、大人声の**Sei**君の号令で締め括り。

安心して中学校生活をスタートする準備ができた、最高の交流会となった。